

年度計画の自己評価について

(1)小項目内の個別目標に対する基準

①個別目標に対する基準

【個別目標】

- ① まずは、表中の基準に応じて自己評価を行う。
- ② 年度計画策定時には想定しなかった以上の新型コロナウイルス感染症の影響を受けた目標については、その影響を踏まえ、自己評価を再度行う。

	数値目標	定性的な目標
V→5点	特段の成果が認められる場合	特段の成果が認められる場合
IV→4点	定量的目標数値の達成度(目標対比)が相当程度上回る場合 ・目標が501件以上の場合 → 達成度(目標対比)が105%~ ・目標が101件以上500件以下の場合 → 達成度(目標対比)が110%~ ・目標が100件以下の場合 → 達成度(目標対比)120%~	年度計画を相当程度上回る成果が認められる場合
III→3点 (基準)	年度計画を順調に実施している場合 ・達成度(目標対比)が90%以上	年度計画を順調に実施している場合 ・年度計画に記載された事項をほぼ100%計画どおり実施している。
II→2点	年度計画を十分に実施できていない場合 ・達成度(目標対比)が90%未満	年度計画を十分に実施できていない場合
I→1点	特段の支障が認められる場合	特段の支障が認められる場合

②重点取組項目に対する基準

【重点取組項目】

- ① まずは、表中の基準に応じて、達成基準の自己評価を行う。
- ② 年度計画策定時には想定しなかった以上の新型コロナウイルス感染症の影響を受けた達成基準については、その影響を踏まえ、自己評価を再度行う。
- ③ ①および②の自己評価に基づき、重点取組項目の評価を決定する。

	達成度合
V(6点にアップ)	特段の成果が認められる場合
IV (V評価(5点)にランクアップ)	年度計画を相当程度上回る成果が認められる場合 ● 達成基準に定性的な目標を設定している場合、目標を相当程度上回る成果が認められる。 ● 達成基準に数値目標を設定している場合、以下の基準でIV評価相当とみなす。 ・目標が501件以上の場合 → 達成度(目標対比)が105%~ ・目標が101件以上500件以下の場合 → 達成度(目標対比)が110%~ ・目標が100件以下の場合 → 達成度(目標対比)120%~ ● 達成基準に複数項目を設定している場合、全ての目標がIII評価以上であり、かつIV評価の項目を含んでいる。
III (IV評価(4点)にランクアップ)	年度計画を順調に実施している場合 ● 達成基準に定性的な目標を設定している場合、年度計画を達成している。 ● 達成基準に数値目標を設定している場合、達成度(目標対比)が100%以上。 ● 達成基準に複数項目を設定している場合、全ての目標がIII評価である。
II (III評価(3点)にランクアップ)	年度計画を十分に実施できていない場合 ● 達成基準に定性的な目標を設定している場合、年度計画を達成していない。 ● 達成基準に数値目標を設定している場合、達成度(目標対比)が100%未満。 ● 達成基準に複数項目を設定している場合、1つでもII評価が含まれている。
I (II評価(2点)にランクアップ)	特段の支障が認められる場合



各項目を点数化し、平均値で区分。

平均値を出し、区分に応じて評価を決定する方法は変えません。

(2)小項目に対する基準

V	特段の成果が認められる場合(4.3点~)
IV	年度計画を相当程度上回る成果が認められる場合(3.5点~4.2点)
III	年度計画を順調に実施している場合(2.7点~3.4点)
II	年度計画を十分に実施できていない場合(1.9点~2.6点)
I	特段の支障が認められる場合(~1.8点)

ただし、特筆すべき実績や、やむを得ない事情などがあれば、これらも勘案した上で最終的な評価を決定する。

再評価（自己評価②）の基準

※ 計画外の数字・実績を用いて再評価することは認められない。

評価の目安	
評価対象外	計画で定めた取組について、新型コロナの影響で未実施となった場合
V評価	特段の成果が認められる場合 ▶ 自己評価①がIV評価（実績が計画よりも相当程度上回った）であり、新型コロナの影響を受けながらも、計画達成に向けた取組や工夫を実施した場合。
IV評価	年度計画を相当程度上回る成果が認められる場合 ▶ 自己評価①がIII評価（計画を順調に実施した）であり、新型コロナの影響を受けながらも、計画達成に向けた取組や工夫を実施した場合。
III評価	年度計画を順調に実施している場合 ▶ 自己評価①がII評価（計画を十分に実施できなかった）であり、新型コロナの影響を受けながらも、計画達成に向けた取組や工夫を実施した場合。
II評価	年度計画を十分に実施できていない場合
I評価	特段の支障が認められる場合

● 再評価の記載例は以下のとおり。

令和3年度計画	令和3年度実績	自己評価①	自己評価②	自己評価②の理由	
肺がん新入院患者数 目標：1,470人	実績 1,300人 (達成度：88.4%)	II	III	例① 第5波の患者数増加に伴い、新型コロナの受入れ病床の拡大要請があったため、7月～10月は肺腫瘍内科の病床を制限したことで、目標を下回った。 病床を拡大していない時期（4～6月、11月～3月）の患者数は115人/月であり、同じ体制で1年間対応していた場合、 $115 \times 12 = 1,380$ 人/年となり、目標達成率は93.9%となることから、III評価として判断した。	<ul style="list-style-type: none"> 計画時に想定していなかった状況が記載されている。 なぜIII評価とみなせるのか、理由が明確。
				例② 令和3年度の目標値については、令和2年度の目標値をベースに令和2年度のコロナ病床の割合を考慮して算出（ $1,800 \text{人} \times 299 \text{床} / 366 \text{床}$ ）したが、第4波・第5波の影響により、令和2年度よりも、コロナ病床が8床増加した。 これを考慮して算出すると、目標値は1,431人（ $1,800 \text{人} \times 291 \text{床} / 366 \text{床}$ ）と考えられ、目標達成率は90.8%となることから、III評価と判断した。	<ul style="list-style-type: none"> 計画時に想定していなかった状況が記載されている。 なぜIII評価とみなせるのか、理由が明確。

● 以下のような内容は適正な理由と認められません。

令和3年度計画	令和3年度実績	自己評価①	自己評価②	自己評価②の理由	
肺がん新入院患者数 目標：1,470人	実績 1,300人 (達成度：88.4%)	II	III	例③ 新型コロナの患者対応にマンパワーを割いたので、肺がん新入院患者数は目標を下回った。 ただし、コロナ対応に尽力したことから、III評価と判断した。	<ul style="list-style-type: none"> 計画の代わりに、コロナ対応をしたことで再評価するなど、計画外の数字・実績を用いて再評価することは認められない。
				例④ 令和2年度以上に患者を受け入れることを目指し、高い目標を設定していたが、患者の受診控えにより、目標を下回った。 ただし、対象患者には適切に対応したことから、III評価と判断した。	<ul style="list-style-type: none"> 計画策定時に想定していなかった状況が明確でない。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 患者の受診控えが想定以上と言う場合は、そのエビデンスを示されたい。 ② 想定できなかった状況により計画を下回ったと言えない場合は、再評価せず、通常の評価を行うこと。

● 数値目標の場合

令和3年度計画	令和2年度実績			
	実績	自己評価①	自己評価②	理由
紹介率 計画値 80.0%	実績 78.0% (達成度97.5%)	Ⅲ		(新型コロナウイルス感染症による影響がなかった計画は再度、自己評価を行う必要はありません。)
肺がん新入院患者数 計画値 1,470人	実績 1,300人 (達成度: 88.4%)	Ⅱ	Ⅲ	第5波の患者数増加に伴い、新型コロナの受入れ病床の拡大要請があったため、7月～10月は肺腫瘍内科の病床を制限したことで、目標を下回った。病床を拡大していない時期(4～6月、11月～3月)の患者数は115人/月であり、同じ体制で1年間対応していた場合、 $115 \times 12 = 1,380$ 人/年となり、目標達成率は93.9%となることから、Ⅲ評価として判断した。

【手順1】実績を踏まえて、まずは基準に基づいた自己評価を行う。

【手順2】
年度計画策定時には想定しなかった以上に、新型コロナウイルス感染症が実績に影響を及ぼしたと認められる場合、その影響を踏まえた自己評価②を記載。
・取組がⅤ～Ⅰ評価のいずれとみなせるか判断いただき、評価を記入すること。
・なぜその評価と判断したのか、必ず理由を記載すること。

● 定性的な目標の場合

令和2年度計画	令和2年度実績			
	実績	自己評価①	自己評価②	理由
・ 全国のDMAT研修修了者を対象に、公益財団法人日本中毒情報センターが行う「NBC災害・テロ対策研修」(国の委託事業)の実施に協力する。また、大阪万博における災害対応の準備を開始する。	・ 「NBC災害・テロ対策研修」を実施するとともに、大阪万博における災害対応の準備を開始した。	Ⅲ		(新型コロナウイルス感染症による影響がなかった計画は再度、自己評価を行う必要はありません。)
・ 患者やその家族が安心して療養生活を過ごせるよう、地域医療機関との相互連携を強化するとともに、地域医療機関への訪問活動や講演会等を充実させる。	・ 地域医療機関との連携のため、オンラインによる講演会等を開催した(月2～3回)。新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、訪問活動は実施できなかった。	Ⅱ	Ⅲ	・ 第4波・第5波の影響を鑑みて、訪問活動を中止せざるを得なかった。しかし、オンラインを用いた講演会やセミナーを積極的に開催し、地域医療機関との強化に取り組んだことから、センターとして自己評価はⅢ評価(年度計画を順調に実施している場合)として判断した。
・ 災害医療訓練及び府内の災害医療機関の医療従事者を対象とする災害医療研修を大阪府と協力し実施し、災害対応能力を向上させる。	・ 計画策定時は、開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、災害医療研修は中止となった。	Ⅱ	—	新型コロナウイルス感染症の影響によって、計画が未実施となった場合は、評価対象外とする。

【手順1】実績を踏まえて、まずは基準に基づいた自己評価を行う。



の自己評価を点数化して、平均値を算出し、小項目の評価を決定する。

	計画内容	達成基準	令和3年度実績				評価の考え方	評価結果		
			実績	自己評価						
例①	中央手術室手術件数	中央手術室手術件数 5,900件以上	<ul style="list-style-type: none"> 中央手術室手術件数：4,600件 (達成度：78.0%) 	自己評価①	Ⅱ	未達成の理由・ 今後の対応	新型コロナウイルス感染症による影響が認められることから、自己評価②を妥当と判断し、Ⅲ評価とみなす	Ⅲ評価 ↓ Ⅳ評価へランクアップ		
				自己評価②	Ⅲ	理由				
例②	糖尿病ケアチームを中心としたチーム医療の充実を図るとともに、高度肥満糖尿病患者への肥満外科手術を推進する。	肥満外科手術施行件数 14件以上	<ul style="list-style-type: none"> 肥満外科手術施行件数：7件 (達成度：50%) 	自己評価①	Ⅱ	未達成の理由・ 今後の対応	(未達成の要因) ・手術の対象となる患者がいなかったため。 新型コロナウイルス感染症に関係なく、未達成となった場合は、その要因と今後の対応を記載。	達成度が100%未満なのでⅡ評価	Ⅱ評価 ↓ Ⅲ評価へランクアップ	
				自己評価②						(新型コロナウイルス感染症による影響がなかった計画は再度、自己評価を行う必要はありません。)

【手順1】
実績を踏まえて、まずは基準に基づいた自己評価を行う。

【手順2】
年度計画策定時には想定しなかった以上に、新型コロナウイルス感染症が実績に影響を及ぼしたと認められる場合、その影響を踏まえた自己評価②を記載。
 ・取組がⅤ～Ⅰ評価のいずれとみなせるか判断いただき、評価を記入すること。
 ・なぜその評価と判断したのか、必ず理由を記載すること。

の自己評価を基に、重点取組項目の評価を決定する。